

地形・地質

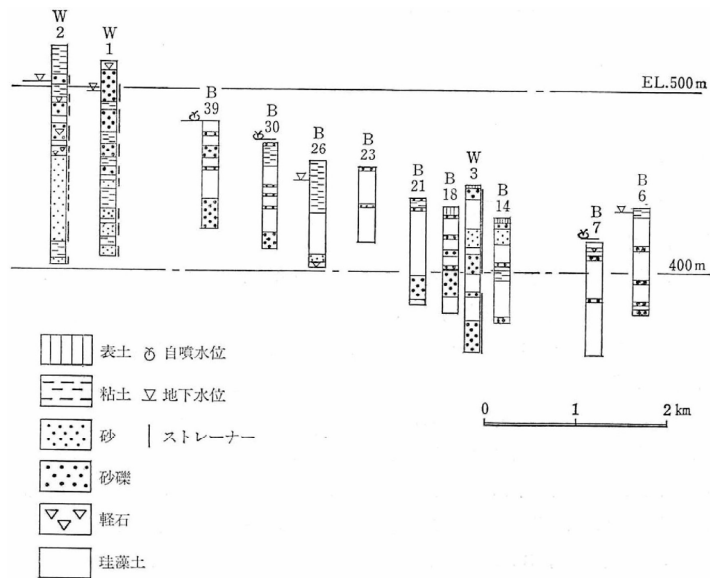
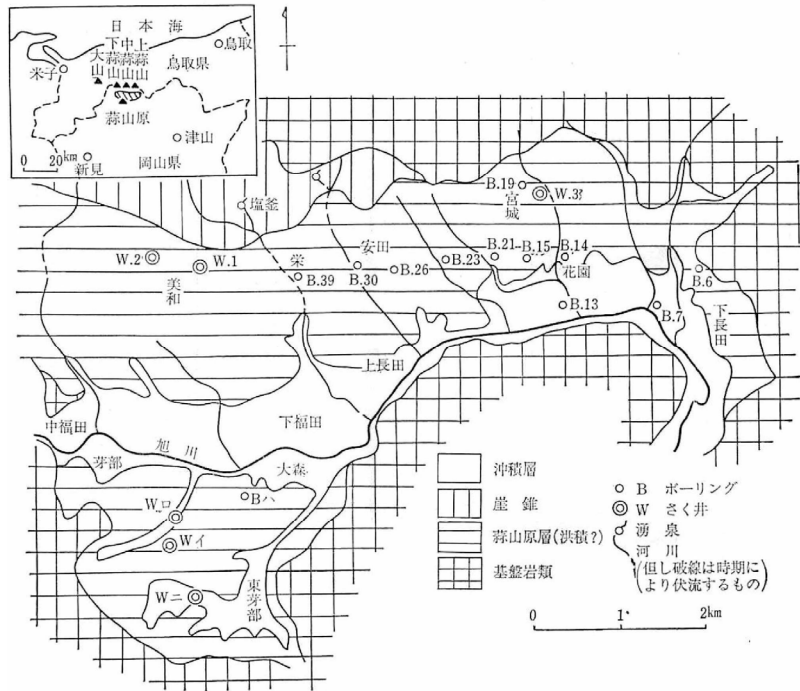
蒜山盆地は蒜山三山の南麓に位置し、別名山中盆地とも呼ばれます。旭川を挟み北方のものを蒜山原と呼び、南方の芽部の緩傾斜地と区分しています。蒜山盆地には基盤岩類を覆って蒜山原層が分布し、盆地の主部を構成しています。

蒜山原を中心とした第四系層序表

時代区分	蒜山原	化石, ¹⁴ C	地史	大山周辺
完新世	掛田段丘		縄文人の集落発達 崖 錐 クロボクの形成 蒜山山麓斜面の完成	
後期更新世	W _{IV}		珪藻土の変形	新期大山 (黒雲母角閃石英英安山岩)
	ウルム氷期 W _{III}	花崗泥炭 宇田段丘	一時的湖沼化	大山上部火山灰 中山礫層 大山中部火山灰
	W _{II}	大山中部火山灰	旭川の下刻と 河岸段丘の形成	大島居砂礫層
	W _I	大森段丘		大山下部火山灰 由良砂礫層
	R/W 間氷期	大山下部火山灰		大山最下部火山灰 御米屋礫層
中期更新世	リス氷期	郷原段丘	古水系の変化	
	M/R 間氷期	大山最下部火山灰	古蒜山原湖の消滅	
	ミンデル氷期	大山凝灰角礫岩 問谷泥炭	珪藻土の堆積 古蒜山原湖の形成	旧期大山 (兩輝石安山岩)
前期更新世	ギュンツ氷期	蒜山原層		溝口凝灰角礫岩 ?
	ドナウ寒冷期	蒜山火山岩?	蒜山火山の活動 古脊稜部に凹所形成	
先第四系	基盤岩類 (花崗岩類 中生代酸性 火山岩類 三郡変成岩)			

地下水

蒜山原には、崖錐層から湧出する湧泉があります。蒜山原層は中期更新世の湖成層とされ、旧時の湖盆にほぼ水平に堆積した砂、礫、粘土、珩藻土などの互層です。そのうち砂・砂礫・軽石層が帯水層になり、場所によって自噴しています。



蒜山盆地の水文地質図と断面図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.iagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）